

# ストップ温暖化！流山プラン

第4期流山市地球温暖化対策実行計画 区域施策編（概要版）

## 流山市が目指す将来像「脱炭素都市ながれやま」

全ての市民や事業者が、それぞれの活動において脱炭素型のライフスタイルや事業活動を取り入れ、地域そのものが二酸化炭素排出量実質ゼロのまちとなる「脱炭素都市ながれやま」を目指します。

この計画は、平成10年に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき市内全体の温室効果ガス排出量削減を定めるとともに、「気候変動適応法」に基づく「地域気候変動適応計画」を内包するものです。

2030（令和12）年度に2013年度比46%削減、2050（令和32）年度に排出量実質ゼロを目標とし、国の削減目標と足並みをそろえることとしています。  
※市役所の事務事業による削減は別計画「事務事業編」で定めています。

## 基本方針

市民や事業者の意識・行動改革による実践行動「ソフトパワー」を最大限に活かし、「脱炭素都市ながれやま」の実現を目指します。



## 目標

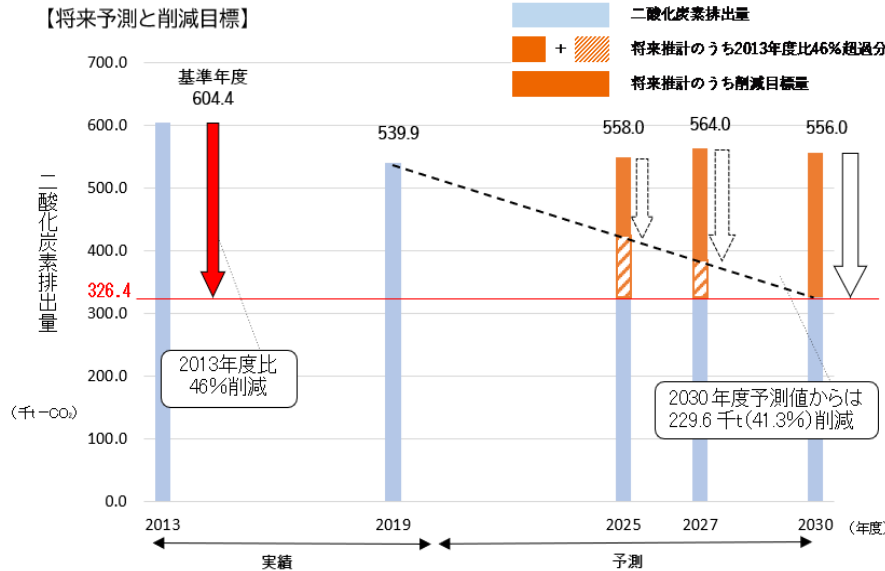
### 中期目標

2030年度の二酸化炭素排出量 2013年度比 **46%削減**

### 長期目標

2050年度の二酸化炭素排出量 **実質ゼロ**（※）

※二酸化炭素排出量から植樹や森林等の吸収量を差し引き、実質ゼロにするもの



## 近年の排出量の内訳は？

部門	2019年度排出量	比率
産業	製造業	40.4 (7.5%)
	建設業	5.1 (0.9%)
	農林業	2.1 (0.4%)
民生家庭	電力	139.9 (25.9%)
	都市ガス	42.0 (7.8%)
	LPG	11.2 (2.1%)
	灯油	10.3 (1.9%)
民生業務	電力	113.1 (20.9%)
	都市ガス	16.0 (3.0%)
	熱	1.3 (0.2%)
	LPG	2.5 (0.5%)
	灯油	6.4 (1.2%)
運輸	自動車	109.2 (20.2%)
	鉄道	10.1 (1.9%)
廃棄物	21.1 (3.9%)	
合計	539.9	100.0%

排出要因の上位3分野

1. 民生家庭部門における電力
2. 民生業務部門における電力
3. 運輸部門における自動車

電力と自動車への対策が重要！！

具体的な削減策は裏面へ

# 皆さんの取り組みで、これだけの二酸化炭素が削減できます！

「ストップ温暖化！流山プラン」では、二酸化炭素排出量の多い電力消費の削減や自動車対策を中心に、5つの重点施策と適応策を定めています。各施策の中から、具体的な取り組み例を紹介します。




## 重点施策①


市民・事業者との協働による  
省エネルギー生活への転換の推進




2030年度削減量  
140.7千t-CO<sub>2</sub>


 エアコンの買い替え  
・効率的な利用  
8畳～12畳用(2.8 kW)の

買い替えで 38.3 kgの削減。  
夏は28℃に、冬は20℃に設定し、月1～2回のフィルター清掃で 56.3 kgの削減。

 冷蔵庫の買い替え・  
効率的な利用  
401 L～450 Lの冷蔵庫

の買い替えで 21.0 kgの削減。つめこみすぎない、無駄な開閉はしない、開ける時間を短く、設定温度を強から中へ変更で 81.6 kgの削減。

 高効率給湯器の導入  
ヒートポンプ給湯器(エコキュート)1台につき 530 kg、潜熱回収型給湯器(エコジョーズ) 1台につき 70 kg、燃料電池(エネファーム)1台につき 160 kgを削減。

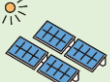
 ZEH(ネット・ゼロ・  
エネルギー・ハウス)  
年間のエネルギー消費と生み出すエネルギー(創エネ)との収支が「正味ゼロ以下」になる住宅の導入で 2,291 kgの削減。


## 重点施策②

再生可能エネルギーの活用



2030年度削減量  
29.3千t-CO<sub>2</sub>

 太陽光発電設備の導入  
一般世帯の年間発電量4,200 kWh。  
1世帯当たり 1,050 kg削減。

 再エネ由来の電力に切り替え  
太陽光や水力などの再生可能エネルギーによって発電された、排出係数ゼロの電力にプランを切り替えることで 1世帯当たり 1,033 kgの削減。

## 重点施策③

環境負荷の大きい自動車からの転換



2030年度削減量  
54.5千t-CO<sub>2</sub>



電気自動車に切り替え  
再エネで充電

ガソリン車を電気自動車に切り替え、全て再生可能エネルギー由来の電力で充電すると 1,500 kgの削減。



テレワーク  
の実施

テレワークを実施することで、1人当たり 230 kgのCO<sub>2</sub>を削減。

## 重点施策④

廃棄物の発生抑制と資源循環



2030年度削減量  
9.9千t-CO<sub>2</sub>

雑紙のリサイクル徹底

家庭から出る「燃やすごみ(湿ベース)」の約4割を占める紙ごみのうち、チラシや食品の紙製パッケージなどの雑紙を資源化。上記分量の1割をリサイクルに回すと、市域全体で 900 tの削減。





## 重点施策⑤

緑地保全と都市緑化による  
二酸化炭素吸収源対策



2030年度吸収量  
2.3千t-CO<sub>2</sub>

 森林による吸収  
流山市の森林面積 249 ha。1年間で1 ha当たり 1.54 tのCO<sub>2</sub>を吸収。

 グリーンチェーン認定  
高木を植栽すると1年間で1本当たり 38.5 kgのCO<sub>2</sub>を吸収。2006～2021年度で448,718本認定。

## 適応策

起こりうる地球温暖化の影響に対応するため、自然災害、生態系、健康などの各分野での対策をまとめています。

